



二宮金次郎 いま、決断の時

二宮金次郎尊徳（1787～1856）は幕藩体制後期、疲弊した農村の立て直しに貢献した人物として評価されている。彼の言行は主として門弟たちが近代に至って記した文献を通して紹介されたが、金次郎が残した文献が繙かれることは少ない。そこで今発表では実際に金次郎が記した文献（書簡・日記・仕法書・著作）を示すことによって彼の本意を明らかにしたい。

金次郎は、少年期に天災と両親の死に直面しつつも、自らの努力（勤儉讓）と一族や村民の助力によって二宮家の再興を果たした。20代には小田原城下に出て武家奉公をはじめた。その活躍ぶりが評価され、小田原藩主から下野国桜町領の再建を打診された。そのとき彼が示したことは「一家を倒し候ても、万家の相続相立て候（善栄寺宛書簡）」という他人のために生きる決意であった。

彼の活躍が際立ったのは天保の飢饉に対する対応であった。飢饉の前年である天保3年冬、愛読書『大和俗訓』（貝原益軒）によって飢饉の前兆を捉え、稗を蒔き付けるなどの対策を採った。周辺領が米不足に陥る中、桜町領は安泰であった。金次郎は他領の救済にも乗り出し、多くの飢民を救済するとともに村々の自立を促した。

やがて、金次郎の活躍は幕府に評価され幕臣に取り立てられた。こうして金次郎の改革は幕領のみならず大名領・旗本領にまで広まった。金次郎が示した解決策は、人口減少・財政悪化・格差拡大に苦しむ現代社会の改善に向けた示唆になるのではなかろうか。

金次郎は日々の思いを日記に示し、また書簡を使って思想を広めていった。困難な局面に遭遇したとき、彼がいかなる決断をしていったのかを考察したい。

同時に、彼の思想は著作にまとめられ、仕法にも広く活用された。多くの円図を用い、農民にも理解可能ならしめたのである。しかし、これらの著作はほとんど知られておらず、今発表を好機として理解を広範なものとしたい。

講師

二宮総本家当主 **二宮康裕 先生**

プロフィール

1947年、神奈川県小田原市生まれ。東北大学大学院博士課程（日本思想史）中途退学。出版社編集部、公立学校教員を経て、二宮金次郎研究に専念。二宮総本家当主。研究主題は二宮金次郎の思想とその形成過程、一円相の思想、金次郎物語の成立と背景、近世安民思想。著作に、『日記・書簡・仕法書・著作からみた二宮金次郎の人生と思想』（麗澤大学出版会 2008年）、『二宮金次郎正伝』（モラロジー研究所 2010年）、『日本人のこころの言葉 二宮金次郎』（創元社 2013年）等

日時

平成30年**10月27日(土)**
午後2時～4時（開場：午後1時）

会場

靖国会館 2階 偕行東
東京都千代田区九段北3-1-1（靖國神社内）

参加費 1,000円

どなたでも御来聴を歓迎しますが、先着100名まで。但し、予約できます。学生は無料。

主催・お問い合わせ先

一般財団法人
日本学協会

〒166-0002

東京都杉並区高円寺北1-12-19

TEL.03-3386-0422 FAX.03-3385-0970

Eメール：nihongakukyokai@jcom.home.ne.jp

http://www.nihongakukyokai.or.jp/